

第 I 部

教職を目指す学生へ

教員採用試験合格者の経験を聞く

誰かを頼る大切さ

N. I. (キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科4年)

1 法政大学のカリキュラムにない、小学校教員を目指すということ

私の「教員になる」という夢は高校生の頃から、心のどこかにはあったものの、3年生になるまではっきり志望していませんでした。それが、大学生活を過ごす中で、教員を目指す仲間に出会ったことや、ゼミで教育について学ぶうちに本格的に目指すようになりまし。そして1年生の頃からボランティアを通して関わりのあった、小学校で教員になりたいと思うようになりまし。

しかし、法政大学には小学校教員の免許を取得できるカリキュラムがないため、小学校教員資格認定試験を受験することにしました。初めは、その道の不確かさと、前例のなさに不安がありましでしたが、自分の決断に後悔のないようにしようと決め、3年生の夏から勉強をはじめまし。そして、2回目の挑戦で無事合格し、免許を取得することができました。

2 どのような試験対策を行なったか

私は4年生になってから、横浜市の教員採用試験と、教員資格認定試験という2つの試験を同時並行で受験する運びとなりました。採用試験の直前まで教育実習があったり、試験対策をしながら卒業論文を書いたり、スケジュールは正直かなりハードでした。そんな中でも、教職課程センターでの講座を中心に勉強スケジュールを組めたことで、教職仲間と共に実践的な対策をしたり、勉強時間の確保ができたと思いま。

2-1 横浜市教員採用試験

横浜市の採用試験では、1次に教職教養と一般教養のマークシート試験があり、2次に模擬授業と面接(場面指導含む)がありました。この二つの試験は、教職課程センターの講座がとて有効だったと思いま。参加できる日は毎日、講座に参加しまし。特に有効だったのは、模擬授業や面接の練習です。これは一人で言うよりも、先生や仲間にもてもらうことで客観的なアドバイスを頂き、仲間の良さを吸収して、自分の技量を磨くことができたので、ぜひ活用することをおすすめしま。戸塚先生が開催して下さった講座の他にも、同じ内容の採用試験を受ける仲間同士で、場面指導や模擬授業の特訓練習を自主的に行ったりもしまし。そうして切磋琢磨できたことで、技術の向上だけでなく、試験に対する不安感も解消することができ、自信を持って本番に臨むことができました。

2-2 小学校教員資格認定試験

認定試験では、1次に教職教養、専門科目、小論文4本を

書く、という内容の試験がありまし。この対策が私の中で1番大変で、時間をかけた部分でした。1回目の挑戦(3年生)では小論文があと1点足りずに不合格だったので、2回目の挑戦(4年生)には半年前から小論文の対策をしていまし。方法は、本番と同じ時間で論文を書いて先生に見てもらい、書き直すというサイクルを繰り返すことです。お勧めするのは、一度書いて添削を受けたもので満足せず、納得の行くまで同じ話題でかくことです。そうすることで、「合格を取れる小論文の型」を身につけることができたと思いま。2次は、二日間に分けて Zoom で行われ、指導案作成、小論文作成、集団討論、模擬授業がありまし。2次試験では、より実践的な力やコミュニケーション力が求められていると感じまし。この対策では、戸塚先生をはじめ、お世話になっている小学校の校長先生に実践内容を見てもらうことや、集団討論を経験した教員志望の仲間が開いてくれた討論練習会などで、自分の納得いくまで練習を重ねまし。

3 誰かを頼る大切さ

ここまでの試験を終えて、一番実感したことは、誰かを頼る大切さです。私の性格上、心配性という部分があるので、自分の納得いくまで対策をやるためには、自分の力だけでは到底困難で、周囲の方々にたくさん支えていただきました。戸塚先生、ゼミの教授、小学校の校長先生、ボランティア先の先生方、教職の先輩方、教員を志望する仲間など、心配性な私を近くで応援してくださり、支えてくださったことに本当に感謝していま。その中でも、戸塚先生には、何度も何度も面談を申し込んで、アドバイスを頂いたり、励まして頂いたりしまし。また、知り合いの校長先生には、小学校教員ならではの目線で助言をいただき、とて勉強になりました。このように、助けてもらいたい時には、自分から動き、誰かを頼るという大切さを実感しまし。この経験は、教員として現場で働く際にも生かしていきたいと思いま。

4 教職を目指すみなさんへ

私が教師の道を目指すようになってから、教師をしている先輩方に話を聞くと、どの方も「大変だけど楽しい」というふうにおっしゃっていたことが印象的でした。私自身、教師の忙しさや大変さが社会的に問題とされている中、この文章を書いている今でも、自分に先生が務まるのだろうか、と不安がたくさんあります。しかし、自分の決めたことに後悔のないよう、そしてここまで応援して下さった方と同じくらいのやりがいと感じられることを目標に、まずは一年目を頑張りたいと思いま。卒業前の2月には、教育実習も控えているので、そこでたくさんの学びを得たいと思いま。大学生らしい息抜きも大切にしながら、教員志望の仲間とともに頑張ってください。応援していま。

私立学校の選考を通して感じたこと

T. I. (文学部英文学科 4年)

はじめに

私は私立学校を受験して、都内の私立中高一貫校に内定をいただきました。ここでは、内定をいただくまで、どのように採用試験の対策をしてきたのかを述べます。

1. なぜ私立学校の教員を目指したのか

私が私立学校の教員を目指したのは、異動がなく卒業した生徒にも関わることができるということと、長い時間をかけて学校の運営や新しい教育方法へチャレンジしてみたいと考えているからです。大学3年の時期に、公立と私立のガイダンスなども受けて、公立受験をするかどうか迷った時期もありました。それは、私立学校は非常勤講師からスタートする可能性が高いこと、3年間で専任になれない場合はその後の契約が確約されていない学校があること、募集人数が少ないこと、秋から本格的な採用が始まることなど、リスクがあるからです。しかし、先に述べたように、私立学校の教員になりたいという想いが強く、最終的には公立は願書を提出することもしませんでした。公立と私立の採用試験は両立できないものではありませんが、私の場合は私立学校への合格率が高まったと思うので、この決断は良かったと思っています。

2. 私立学校の採用試験対策について

私立学校の採用試験は大きく春採用、秋採用、年明けから始まる最終採用に分かれています。春採用は一般企業で言う早期採用のようなもので、秋が本格的な採用シーズンになっています。私立の採用情報は自分で集めないといけません。私は教職課程センターで勧めていただいた求人情報を掲載するサイトや、各県の私立協会が運営する登録システムに履歴書情報や希望の校種、科目などを載せ、情報を集めました。その中から教員として自分に合いそうな学校や、求める待遇などを基準に選考を受けていきました。私立学校は面接で必ずと言っていいほど、なぜこの学校を選んだのか、建学の精神のどこに共感したのかということ聞かれます。なので、自分の考えに合っている学校を選ぶことが合格率に深く関わってくると思います。

私立学校は教科にもよりますが、各教科1、2人採用することが多いと思います。行きたい学校があっても今年度は募集がないという場合もあります。英語科は進学校などであれば英検やTOEICなどの点数で出願条件を課している学校もありました。全体の傾向としては模擬授業と面接が重視されるとガイダンスなどで言われていましたが、実際にそのように感じました。内定をいただいた後に聞いた話ですが、私の場合は、模擬授業が良かったことと、面接でその学校の教員として合っていると面接官に感じていただけたことが採用の理由だと教えてくれました。

次に各試験の対策です。筆記試験の対策として、私は英語

科なので、3年生の春からたくさん資格試験を受けました。特にTOEICと英検に時間をかけて対策をしました。筆記試験は大学入試問題や、高校の定期テストのような形式の問題が多いと思います。レベルとしては早慶や国立大学の過去問レベルが多いと感じました。公立の試験よりは難しいので、大学受験の対策をもう一度し直すか、資格試験の対策を日々するのが良いと思います。面接は主に教職課程センターの対策講座を受講することで対策をしました。自分が話す練習をすることはもちろん重要ですが、面接官役もできることがこの講座の良いところです。面接官がどんな質問をしたくなるのかがわかってくれば、本番で面接官を誘導することができます。その力がつくと、本番で伝えたいことを質問してくれやすくなるので、自分の伝えたいことを十分に伝えられるようになります。また、本番までにしっかり学校のホームページを読み込んで、建学の精神などは言えるようにしてください。その際に、こちらから質問することも何点か考えておいた方が良いでしょう。こちらから質問ができるかどうかで、その学校に本当に興味があるのか見られていると思います。模擬授業も同様に対策講座を受講しました。また、先生に個人指導をお願いして何度も同じ授業を見ていただきました。教育実習でも同じことを思いましたが、授業は練習をして、修正を繰り返して上手くなるものです。準備して、少しずつ修正するのは時間がかかり、大変ですが、選考では本当に重視されるので、板書も含めてたくさん練習してください。そして私立高校では授業のレベルに注意してください。これもホームページで進学先などをチェックして、その学校のレベルに合った授業を用意することがポイントだと思います。

おわりに

これから教員採用試験を受ける方はいろんな不安があると思います。まずは自分がどんな想いで教員になりたいのかを言語化してみてください。その想いが自分のモチベーションとなり、その言葉が面接官の心を響かせるはずですよ。できることから1つずつこなしていきましょう。

受験を通して得た経験

K. K. (文学部哲学科 4年)

○はじめに

今年度、静岡県高等学校社会科、東京都中学校・高等学校社会科の教員採用試験を受験し、合格をいただくことができました。私は、物事を要領よくこなせるタイプでもない上に、恥ずかしながら、これまで受験という受験を経験したことがありませんでした。そのため、私にとってこの一年の経験は大きな糧となりました。今回は私の経験した1年間を振り返ります。私自身の経験が少しでも皆さんのお役に立つことができれば幸いです。

○教員を目指すまで

大学3年生の6月ごろから就職活動を始めました。当時は、

民間企業に就職するつもりで人材業界と教育業界に重点を置いて企業を探していました。夏休みの間、多くの企業で短期インターンに参加させていただく中で、「私がやりたいことって本当にこれだろうか。」と考えるようになりました。そして、高校時代の恩師を思い出し、「誰かの価値観を広げることができる人間になりたい」と思い、教員の道を目指すことを決めました。10月初旬に決断をして以降、民間企業への就職の想いは断ち切り、教員一本に絞り受験勉強を始めました。

○秋から冬にかけて

小論文や筆記問題が徐々に解くことができるようになっていく中で、個人面接は一向に成長しませんでした。その一番の原因は志望動機についてでした。正直、昔から教員になりたかったわけでもなく何を言っても嘘臭く感じました。しかし、教育実習やボランティアをとおして、子どもと向き合う中で気付くことは多く、そうした経験を踏まえて志望動機を考えました。皆さんも教育実習やボランティアでの経験は必ず自分自身の糧となり教員になりたいと思う契機になると思います。そうした機会を大切にしてください。

○春頃

3月頃から周りの知人が徐々に就職が決まり、焦りが募りました。そんな中で、私の心の支えとなったのは一緒に面接練習をしてくれた2人の学生です。2人とはもともと知り合いだったわけではなく、集団討論対策講座でたまたま同じグループになっただけでした。しかし、面接に対する姿勢が非常に参考になるものであったため、一緒に面接練習をして自分も上手になりたいと思い、戸塚先生経由でご連絡させていただきました。教職課程センターに同じ学科の友人がいなかった私にとって2人の存在は大きく、面接練習だけでなく、面接シートの添削やお互いの悩みを共有することで受験勉強を共に頑張る仲間ができました。私が合格した大きな要因がこの受験仲間を作ったことです。法政大学のように気軽に受験を共にする人に会うことができる機会は貴重です。面接練習や教職講座の際に勇気を出して声をかけてみてください。

○一次試験

静岡県の一次試験は筆記試験、個人面接でした。しかし、試験の前日に熱海で土砂崩れが起こったため、一次試験は1日延期となり筆記試験のみとなりました。私は面接にかなり時間をかけてきたため、とても不安になりましたが、恐らく他の人も同じ気持ちだと思い、前日は体調を整え兄と焼肉を食べに行きました。試験の際に、想定外のことが起きることはよくあることだと思います。そうした状況をネガティブに捉えるのではなく、他の人も同じ気持ちだと思い、いかに早く切り替えることができるかが大切だと思います。

○二次試験

二次試験は小論文・個人面接・集団面接で予定通り行われました。受験会場を前にして緊張しましたが、「私は1年間、会場にいる誰よりも準備をしたんだ。」と言い聞かせて試験に臨みました。

個人面接は10時20分～17時まで行われる中で最初でした。このときも、最初であることをマイナスに捉えず、自分が良い空気を作ることができると思い臨みました。たくさん練習したおかげか、二次対策講座で戸塚先生にさんざんいじめられた結果かわかりませんが、緊張の中でも落ち着いて笑顔で臨むことができました（入室の際にドアを閉め忘れましたが）。

集団討論は6人で行うものを4人で行うことになりました。その中で、タイムキーパーとまとめ役をやりました。その際、笑顔、周りをよく見ること、相槌を打つことを心掛けました。集団討論は話す内容の素晴らしさではなく、他者とうまくコミュニケーションを取れるかを見られます。そのため、集団討論に関しても教職課程センターに通う学生と多くこなすことをお勧めします。

○最後に

受験を終え振り返ると私が合格できた大きな要因は二つです。一つ目は、ともに教員採用試験を受ける仲間がいたことです。県は違いますが2人も無事合格され、皆で合格できたことが本当に嬉しかったです。二つ目は戸塚先生を中心に教職課程センターを多く利用したことです。戸塚先生のような教員・採用を経験されている方のご指導いただける機会は本当に貴重です。とにかくたくさん活用してください。また、自分がどれくらい頑張ることができたかが本番での自信に繋がります。皆さんが合格できることを願うとともに、心から応援しております。

謙虚な姿勢で学び続ける

G. S. (キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科4年)

1. はじめに

今回、千葉県教員採用試験にて、中高共通・社会科で合格をいただくことができました。採用試験に臨むにあたり、具体的な勉強方法と、心構えについて述べたいと思います。少しでも参考になれば幸いです。

2. 一次試験に関して

(1) 教職教養の対策を始める前に

一次試験の勉強を始める前に、千葉県の過去問を解いてみることをお勧めします。過去問を解く目的は、傾向を知るためです。千葉県はローカル問題や、時事問題を中心としているなど、特徴的だと思います。教職教養の量は膨大であるため、ポイントを絞って学習するとよいのではないのでしょうか。

(2) 教職課程センターの利用

教職課程センターでは教職教養の対策講座を実施していただきます。自分一人では押えにくい時事問題や面接での要点を踏まえて教職教養を効率よく学習できます。加えて、過去問にも挑戦させてくれます。問題に取り組むことでインプット・アウトプットの両方に取り組むことができるようになります。私は教職教養のほとんどを戸塚先生からいただいたレ

ジュメで勉強しました。

(3) 専門教養の対策

千葉県の社会科はセンターレベルの社会、全科目が出題されます。一次試験での配点も専門教養の配点が大きくなります。

私は、9月ごろから、大学受験対策の映像授業を受講し、6月にはすべてが受講完了するスケジュールを計画しました。その後は、センター過去問を10年分解き、全ての科目を7～8割の得点率に仕上げました。

(4) 勉強時間の確保

ここまで読んでくださった方は、これからの勉強量に驚いてくださることでしょう。千葉県の教育施策を覚え、教職教養を解き、大学受験レベルの社会科全科目を7～8割と、やることは膨大です。そこで重要なのは時間の確保です。

私は、10時から22時まで大学の自習室で勉強をしていました。やるべき勉強内容は多いですから、時間はあつという間に過ぎていきました。悔いが残らぬよう、全力で勉強してください。

3. 二次試験に関して

(1) 面接対策について

面接対策は教職課程センターでの講座で練習させていただきました。加えて個別相談で戸塚先生にお願いし、面接練習をしました。さらに、同じ千葉県を受験する方や教職課程センターでの友人と一緒に教室を借りて対策をしました。面接対策は、場数を踏むことが重要です。本番1週間前には、高校の恩師や副校長にお願いし、機会をいただきました。当日緊張しないためには、場数を踏んだことで得られる自信が大切です。

(2) 面接を受けて感じたこと

あくまでも一個人の感想ですが、面接官は完璧な人、聡明な人を求めているようではありませんでした。面接では、成功した話よりも、失敗だと受け止め、学び続ける姿勢に対して好反応でした。新卒の学生は、経験や技量の面では講師経験のある方には、勝つことが出来ません。だからこそ、謙虚な姿勢であり、学び続ける意志が重要だと思います。

(3) 模擬授業対策について

模擬授業対策も教職課程センターでお世話になりました。また、友人とも模擬授業を練習するなどかなりの場数を踏みました。授業の手法等は、現場の先生から見て学びました。発問の仕方、内容、目線、全て授業見学を繰り返し、それを自分でもできるように何度も模擬授業をやってみる、その繰り返しです。

4. 経験をする

私は大学3年生から「ちば！教職たまごプロジェクト」に参加していました。これは週一で中学校に入り、授業見学、生徒指導、部活動に教員の立場から参加するというものです。ただ一緒に生徒と過ごし、楽しかっただけで終わらせるのではなく、生徒とのコミュニケーションでうまくいかないとき

に別の方法を試したり、疑問に感じたことを教員に聞いてみたりと、積極的に学ぶことが必要だと思います。面接官には、生徒に対して、試行錯誤できるか、失敗だと受け止めることができるか、他の教員と連携が取れるかなど、いくつかの評価ポイントがあります。そのポイントを意識して教育現場で経験することも対策の一つになると思います。

5. 心構え

教員になるという強い意志を持って欲しいです。周りの友人は早くに就職が決まり遊んでいます。さらに教員の枠は狭き門です。その中でも勉強していかなければなりません。

私が強い意志を持って採用試験を乗り越えることができた理由は2つあります。

1つ目は、なりたい教員像があったからです。教員になったらやりたいこと、生徒に何を伝えたいのか、何を考えさせたいのか、想像してみるといいと思います。教員を目指す方なら、あると思います。想像してみるとわくわくしてきませんか。そのわくわくが乗り越える源です。

2つ目は、周囲の方です。教職課程センターの戸塚先生や対応してくれた方、声をかけてくれた方、一緒に対策してくれた友人、実習先の先生、周囲の方が全員、あなたが教員になることを応援してくれています。その応援に応えることも、採用試験を乗り越える源です。

6. 最後に

採用試験対策は大変だと思います。自分のためだけでなく、将来の自分の教え子のためにも勉強を頑張ってください。

慢心せず、常に謙虚な姿勢で学び続けることが大切です。応援しています。

私の教員採用試験体験記

S. T. (文学部英文学科4年)

私は今年度、東京都中高共通英語科の教員採用試験を受験し、期限付き任用の結果をいただくことができました。綺麗な合格ではないですが、私のこれから綴る体験記が受験される皆さんに何かお役に立てれば嬉しいです。

1. 三年秋

この時期は、教職課程センターに足を踏み入れ、本格的に対策を始めた頃でした。教採筆記対策自体は一応、三年の夏休み期間に過去問演習をしていました。過去問を自力で解き、答え合わせし、解説や今まで受けた教職科目の教科書やレジュメを見直しながらノートにまとめる、という方法でやっていました。(専門教養も同じ流れで。)ですが、広範囲な上、法律がたくさん出てくるので歯が立たなかつたです。途方に暮れていた私は、東京都の教採に合格した先輩に泣きつき、先輩の「教職課程センターの対策受けたら？」の一言で遅ればせながら受講を決心したのでした。対策講座を受講してからは、試験で問われるポイントを把握できて大分勉強が捗ってきました。一人で勉強するより仲間がいて心強いし、頑張

れる環境を作れたので本当にこれが乗り越えられた鍵だったなど思っています。とにかく皆さん、早く対策講座申し込みましょう。

2、三年冬、年明け頃

この時期に、第一回目のスランプがきました。過去問の結果がまだ思わしくなく(教教が良くて五割、専門などは二、三割くらい)、自己嫌悪と焦りに苛まれました。学習指導要領や参考書を読んでも、とにかく雑念が多すぎて内容が四割くらいしか入らない時期でした。この時は、戸塚先生の zoom 講義や論文添削、面接対策に参加するので精一杯でした。周りと比べて最低限のことしかやってなかったのですが、ここで対策講座を怠けなくてよかったです。

皆さんにも、もしかしたら今後このような時期が来るかもしれないませんが、是非そんな時も諦めずに勉強を続けて下さい。この時期はダイエットでいうと停滞期みたいなもので、辛いけど努力を続ければ結果が伴い始める分岐点だったかなあと感じています。

3、四年春

五月末から教育実習が始まり、実習が終わったら一次まで一か月前になる時期だったので、実習前は総仕上げの気持ちで筆記対策に臨みました。実習準備(教材研究)に時間を割かれる一方で、ネットで一日一回は教育関連ニュースを見ること、英文を必ず一個読むこと、戸塚先生のプリントを赤シートで隠しながら確認することをルーティンに決めてなんとか勉強を続けていました。実習が始まってからは、教採対策は一切やらず実習に全力投球しました。実習期間中は本当に時間がとれなかったです。でも、実習期間中は一時教採のことを忘れて楽しんだ事が、今となってはよかったと思っています。実習最後の時に、担当クラスの生徒たちが「本当の先生になって戻ってきてよ！」と言ってくれて、本気で頑張ろうとモチベーションが高まりました。

4、一次試験

実習が終わってからは、とにかく過去問を解いたり、論文の添削をしていただきました。この時期は教職教養の方の点数が安定してきていた一方、専門教養の点数が低迷していたので、たしか教職教養や論文の対策講座を欠席させて頂いて専門の方を中心に勉強していました。英語科なのですが、東京都の英語科の問題はとにかく読む量が多く、内容も理系文系色々出ました。なので、とにかくスキミングで読む練習をしました。背景知識も知っていると英語がわからなくても内容が入ってくるので英文のネット記事を読むなどしておくのが良いです。第二言語習得論とかも英語ですでてくるので、品詞や言語学の専門用語の英語を覚える必要がありました。(自分は幸い、学部で習ってたからそこは大丈夫でした。) こうして勉強していましたが、不安がいつぱいで、本番を迎える頃には不安を通り越して「こんだけやったし、多分なんとかなるっしょ。落ちても死なないや」と逆に気持ちに余裕が出てきました。この気持ちで臨めたので、本番は驚くほどリラックス

して解けました。

5、二次試験

東京都の英語科の二次試験は、集団討論、個人面接、論文、英語での面接でした。英語面接以外は戸塚先生や対策講座受講者のみんなと練習してきたので、特に派手な失敗することなく練習どおりにこなすことができました。言う内容や作法、振る舞い方などはやはり数をこなすことで身につくのだと思いました。

ところが私が一番やらかしてしまったのは、英語面接でした。英語面接は簡単な英会話とリスニング、パッセージ音読、パッセージの内容について自分の意見を述べるというものがあったのですが、同じ東京都を受ける友人と zoom を使ってそれらの対策をしていました。ですが、本番は緊張してしまい、音読は声が震えてかみかみで、受け答えも言いたいことの半分くらいしか伝えられませんでした。一つだけ意見を述べてくださいと言われ答えると、もう一つありますか?と聞かれる予想外のこともありました。東京都の英語面接の情報があまりなかったために不十分な対策となってしまったのと、自分のスピーキング力が足りなかったことがうまくできなかった原因だと分析しています。皆さんは是非、私や友人の受験レポートを参考に、とにかく英会話を練習してくださいね。

以上が私の体験記です。約一年を振り返ってみて、最初の頃はとてつもない難しい試験だと思っていましたが、コツコツ対策していれば実際そうではないことがわかりました。継続は力なり。ダメだと思ってもできる限りのベストを尽くしていれば報われると思います。例え失敗してももう一年あります。勉強の過程も楽しみながら頑張らしましょう!

はじめの一歩

K. T. (文学部日本文学科4年)

「将来の夢は」と聞かれたとき、ずっとなりたくて憧れていて、その実どこか諦めていて、照れくさくて、恥ずかしくて言えなかった夢、それは学校の先生になることでした。今、この瞬間も多くの学校の先生が働いています。しかしその先生方が、必ずしも若い頃から「絶対に教師になる」と決意していた人ばかりではないはず。「自分にはできないから」と、はじめの前から遠慮してしまっている方においては特に、夢を掴むまでの後押しとして、この1年間の経験が少しでもお役に立てば幸いです。

1 出会い

私は、今年度《横浜市・中高国語》枠で教員採用試験を受験し、合格を頂くことができました。しかし先述のように、ずっと一番に志していた夢ではありません。きっかけは、2020年春のパンデミックです。あの一斉休校のあと、これまでに例のない学校現場の混乱が起きていることを知り、思いつきで小学校のボランティアに登録をしました。朝から一日

授業支援にいそしみ、共に給食を食べ、掃除をし、ときに児童から無茶ぶりを言われる日々。消毒作業や職員室のお手伝い程度に想像していた自分にとって、はじめは身体に堪えましたが、しかし慣れていくうちに少しずつ、子どもの成長に携わる喜びを感じるようになりました。不器用で、先生と言うには程遠いものでしたが、それでもこんなに面白いのなら——と、このとき初めて本気で教師になることを決意します。教師を志すきっかけとして、これまで出会った恩師や幼少期の経験のほか、実際に学校現場や教育現場に入ってみるのも良いと思います。初めは躊躇うかもしれませんが、しかしそこでの経験や出会いは、きっと今後の道しるべになるはずです。なおこの時、勢いで7月の終わりに教職課程センターへ連絡をしたのが、私の教員採用試験対策を始める第一歩でした。

2 一次試験対策

初めての個別相談は、先輩方の試験がひと段落した8月の終わり頃でした。この時、私が「合格を狙うのは無理だと思うけど」と言い、「そんなことはない」と戸塚先生が仰っていたことを、鮮明に覚えています。受ける自治体も受験区分もはっきりと定まっていませんでしたが、ものは試しで10月以降の講座を全て受講することにしました。講座と自習の反復によって少しずつ違いや意味を理解していきます。さらに自身の経験と関連付けて用語を理解すると、これまでの記憶と共に、学習内容が鮮やかに蘇ります。そして何より、この学びが教壇に立った時に活かせるのだと意識することで、学んでいる意義もはっきりと見えてくるものでした。教職教養、一般教養、専門科目とも時事通信出版局の対策本を購入、翌年3月までに最低2周程度済ませ、苦手分野は繰り返し解きました。もともと筆記試験が大の苦手と、とくに専門科目は何度も自信を失いました。それでも何度も解き、分かったことはノートにまとめます。論作文も1月から週に1回は戸塚先生に添削して頂き、推敲に推敲を重ねました。その雑文に戸塚先生を悩ませたこと、数知れず——しかし「いくらでも戸塚を使いなさい」との言葉を頂いたため、遠慮なく先生を使いつぶさせて貰っています。なお、結果として自身は横浜市の大学推薦枠を頂きました。ここまで偉そうに書いておいて、恥ずかしながら実は一次試験免除扱いです。しかし、それでも一次試験に向けた学びは全て、教壇に立った時の必要最低限の知識として大いに役立つものだ、と確信しています。

3 二次試験対策

横浜市の二次試験は大きく「個人面接」「場面对応」「模擬授業」の三つに分かれます。とくに後の2つはハードルが高く、その場で考えてその場で演じることに、最大の難しさがあります。迷っている余裕はありません。しかし、このような突発的な対応は間違いなく現場で求められることです。将来に直結する学びです。これに備え、戸塚先生のアドバイスもふまえて対策は早いうちから始めました。何度練習しても、毎回必ず欠点があるというのは最後まで同じでしたが、しか

し経験を重ねるごとに少しずつ自分の形が出来上がっていく感覚はありました。「慣れ」は良くないと分かりつつも、しかしこればかりは慣れていくほかないと思います。とにかく早くから練習を始めることで、出題形式に、ひいては現場であり得る突発的な事例にも冷静に対応できるよう、練習しておくべきだと思います。そして何より、二次試験では人間性を観察されます。言葉には出さずとも滲み出る「自分らしさ」を再確認するためにも、ときに自分磨きや息抜きを忘れたくないものです（というのを口実にサボるのはダメですよ）。

4 むすびに

いま改めて、自分の放った「合格は無理だと思うけど」という言葉を思い出します。戸塚先生に言われた「そんなことはない」という言葉を、そのまま当時の自分に言いたいたいです。いまさら叶いません。その分、いまこの文章を読みながら「無理だと思うけど」と躊躇っている貴方に向けて、すなわち未来の先生に向かって、私からも一言「そんなことはない」。臆せず、その第一歩を踏み出して頂ければ幸いです。

できることから一歩ずつ

Y. N. (文学部日本文学科卒業生)

はじめに

私は今年度、東京都の教員採用試験を中・高共通国語科で受験し、合格をいただきました。教員採用試験に臨む皆さんの役に立つよう、自身の経験を振り返って記しますので、ご参考までにお読みください。

1. 教員採用試験を受験するまで

まず、私は現役生ではなく、昨年の春に法政大学を卒業しています。新型コロナウイルス感染症の影響で教育実習が秋になり、諸々の不安から一度受験を断念してしまいました。しかし、教育実習を経験して、「教員になりたい!」という思いが再燃したため、改めて勉強をすることにしました。私はそれまであまり教職課程センターを利用していなかったのでひとりで悩んで決めてしまいましたが、もし今悩んでいる方がいたら、遠慮せず教職課程センターの皆さまを頼ることをお勧めします。相談に乗ってくださることはもちろん、教採や私立受験、ボランティアなど様々な情報を教えてくださるので、悩み解決のヒントが見つかると思います。実際、もう一度教師を目指したいと思ってから何度も面談や添削指導で戸塚先生のお世話になりましたが、これまで何故お願いしなかったのだろう、と後悔するほどでした。

また、初回の面談では「何月までにこれができるように頑張ろう」と方針を示していただけたので、計画を立てるのが苦手な方も「自分が何をしていくべきか」のイメージがしやすいかと思います。私自身、受験前に不安になった時も、「来月までにこれができるのが目標だから大丈夫」と気持ちを落ち着けて勉強を進められました。教職課程センターの皆さまは本当に優しい方しかいないので、まだあまり利用したこと

が無い、という方はまず足を運んでみてください。

2. 一次試験の勉強の進め方

a. 教職教養

教職教養の学習の進め方としては、主に教職課程センターの講座、問題集、自治体の過去問の三つを中心としていました。問題集は、講座を受けた日の夜に復習として進めていくことで記憶の定着を図りました。参考書は一問一答形式のものを電車で時間のある時に確認するくらいで、そんなに時間を割いては使いませんでした。過去問に取り組んだのは、問題集を一周して間違えた問題を解き直してからでしたが、今思うと慣れるためにもう少しやっても良かったような気がします。特に、時事問題についてはどんな問題が出るのか、どんな資料があるのか（文部科学省や教育委員会のHPの甲等）、時間のある時に目を通しておくといいと思います。過去問は教職課程センターで貸し出してくださる図書を利用しました。自治体で悩んでいる方は問題の比較もしてみてください。

b. 小論文

小論文は多くの皆さんと同じかと思いますが、特に苦手意識がありました。理想としてはたくさん書いて書き慣れることが一番だと思います。書いた分の自信もつき、時間の感覚も実際に掴むことができるからです。ただ私もそうなのですが、他の勉強に追われてしまったり、苦手で腰が重かったりもあるかと思います。そんな方は、習慣化すること、それから、小論文一本で毎回何かしら学びを得ることを軸に据えて進めてみてください。

「毎週水曜日の9時から一本書く」、「前日から気持ちを高めて準備しておいて朝一で書く」、など習慣化していくと書くことへのハードルは徐々に下がります。あとは教職課程センターで予約を取って書かざるを得ない環境を作るのもいいかもしれません。もう一つの毎回何か学びを得る、というところは、スモールステップでいいと思います。教職課程センターの小論文講座でも序論・本論・結論の書き方を順序だてて教えてください。自分の中でもそれを細分化して、今回は序論の中でも現状をしっかり書こう、など目的意識を持ってみてください。「完璧です！」のハンコをいただけるまでちよとずつ挑戦しましょう！

c. 専門科目

特に国語科の話になりますが、何より問題演習をしてそれを修正していくことに尽きると思います。私が意識していたのは学習指導要領とリンクさせている問題です。一言一句暗記するというよりは、その科目でどういう能力をつけさせたいのか、授業ではどう実践するのか、を考えるようにしながら演習を重ねました。

3. 二次試験で大事なこと

二次試験では、これまでの自分自身の経験を基にしつつ、教育現場の実態に即した意見が求められます。生徒・学生時代に努力したこと、ボランティア経験についてはよく質問さ

れました。特にボランティアは短期でもいいので何か子どもと関わるものを経験しておくといいと思います。ボランティア活動は教育の課題を目の当たりにしたり、多様な子どもとの関わりで視野が広がったり、教員への気持ちが増したりと良いこと尽くしです。インターネットや教職課程センターの情報を活用してぜひ参加してみてください。

二次試験で大事なこととして、表情も挙げられます。私は個人面接のときも集団討論のときも笑顔を心掛けました。特に集団討論は知らない方とその場で同じ学校の教員として、もしくは研修会で出会った他校の教員として話し合います。全員で合格するぞ！という思いでリラックスして話し合いができるよう笑顔で挨拶をすることによって円滑に進められたように思います。また、皆が教員を目指していて、子どもや教育のことを真剣に考えている人たちなのだ、と思うとより良い意見を作り上げたい、と前向きに考えられました。

4. 最後に

私が教員採用試験に合格することができたのは、何より周りの方々の支えがあったからです。応援してくれた先生、職員の方々、家族、友人に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

また、教職講座で出会った同じ自治体を受験する皆さんと集団討論の練習をすることができたのもいい経験でした。オススメです。教員を目指す仲間がいるからこそ、試験に一步步ずつ立ち向かうことができました。

私は現在、ボランティアをしていた学習会でアルバイトをしつつ、時間講師として都立高校で働いています。すべてが学びにつながる環境で日々研鑽を積むために励んでいます。昨年教員採用試験を受けようと思い直した時は不安でしたが、今になってみると無駄なこと・無意味なことは一つもないのだと実感しています。皆さんも現在、不安や心配を抱えているかもしれませんが、それでも、教師になりたい、目指したいものがある、という芯は忘れず大事にしてほしいなと思います。ぜひ教職課程センターの皆さまや周りの方の支えを受けて、一步步進んでいってください。皆さんのことを心から応援しております。

経験が実を結ぶ

H. Y. (理工学部創生科学科4年)

私は令和4年度千葉県千葉市教員採用選考に合格し、来年度から中学校数学科教員として勤務します。また、大学3年次から2年間「ちば！教職たまごプロジェクト」という県の教員養成事業に参加し、中学校で研修を行っていました。

千葉県千葉市の教員採用選考を受験予定の方はもちろん、実習等やボランティアを行おうと考えている方にも参考にできれば幸いです。

(1) 千葉県千葉市教員採用選考について

一般選考では、一次・二次試験があります。一次試験は、

筆記試験（教職教養と専門科目）と集団討議。二次試験は、個人面接と模擬授業です。小論文が試験に課されず、集団討議が一次試験にあるのが特徴です。

(2) 教職教養について

千葉県では、令和3年度から教職教養の出題範囲が指定されています。過去2年間は、学習指導要領・教育法規・千葉県千葉市の教育・教育時事からの出題でした。私は、『教員養成セミナー』を定期購読して対策しました。常に最新の教育情報を得ることができ、模擬試験問題等を解くことで知識が定着しました。特に「千葉県千葉市の教育」は教職教養だけでなく、集団討議や個人面接でも問われることがあるので、教育委員会のホームページで教育資料などを確認しておくことが大切です。

(3) 専門科目について

難易度は高くはありませんが、試験時間に対しての問題量、文章題（考えさせる問題）が多かったと感じています。落ち着いて解くことができるよう、試験慣れをしておきましょう。

(4) 集団討議について

千葉県は、集団討議が一次試験にあります。千葉県では「人物重視」の採用試験であると説明会で説明がありましたが、一次試験で人物像を判断できるのは集団討議のみなので、しっかり対策をする必要があると感じています。

集団討議は5〜6名1組で行います。グループメンバーは仲間です。①手を挙げてから発言をする。②話している人を見て頷く。③仲間の意見に付け加えをする。④話せていない仲間を気に掛け、話を振る。以上のことをするだけでも、良い印象を与えられると思います。「そばにいる面接官に良い印象を与えるためにはどうしたらよいか?」「グループ活動に必要な人物とは?」を考えて対策してみてください。

(5) 個人面接について

個人面接では、主に「たまごプロジェクト」などの『活動』について質問されました。

「自分の経験でどんな成長を得ることができたか、それを今後どう生かしていくか」等を整理しておくとういと思います。

(6) 模擬授業について

模擬授業は、当日にテーマが発表されます。令和4年度のテーマは「主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業」でした。構想時間5分間、授業時間6分間です。学年・単元などは指定されていないので、事前に授業内容を2パターン作っていました。

授業時間は6分間しかないため、6分間の中で「授業全体がどう展開されていくのか」がわかるような導入を心掛けました。例えば、学習課題を書いた後に、「今日は、〇〇することがゴールです。そのために、一人で考える時間とグループで話し合う時間をとるよ。その後に、班ごとに発表までできたら完璧だね!」というように、授業の流れを生徒に伝えるように話しました。

また、他の受験生に差をつけるために、次の2点を特に意識しました。①板書計画にこだわることです。6分間で板書を丁寧に書ける受験生は少ないため、敢えて図形の単元を選択して、板書をきれいに書くことも意識しました。②千葉県教育委員会が出している授業改善プランを意識したことです。模擬授業の構想時間に書くメモは回収されます。授業後に試験官の手元に残るのは、このメモのみなので、5分間の構想時間も大切です。千葉県教育委員会のホームページにある「授業改善プラン」をよく読んで授業計画を立てました。授業構想メモ用紙も5分間で書けるように対策することをおすすめします。

(7) ちば!教職たまごプロジェクト

前述のとおり、私は大学3年次から2年間、千葉県の教員養成事業「ちば!教職たまごプロジェクト」(以下、たまプロ)に参加していました。

たまプロは、実際に中学校に配属され、授業見学や学級運営の補助を行います。教育実習は約3週間で、担当学級が決まっています。たまプロでは、担当学級が決まっていなかったため、自分から行動することで多くの先生方の学級経営を学ぶことができます。また、年間を通じての実践研修なので、生徒の成長や実態に合わせた学級経営、様々な単元の授業を見学することができました。

1年目の研修校では、学級担任の先生方をお願いして、すべてのクラスの学級経営を学ばせていただきました。多くのクラスを見学することで、先生方のキャラクターを生かした学級経営や学年ごとの方針などを学ぶことができ、視野が広がりました。ただ1年目の課題として、生徒の実態を把握できず、学級経営の「方法」を学ぶだけとなってしまいました。2年目の研修校では、1つのクラスに入らせていただき、週に1.2回の研修ではありますが、生徒の個性や、学級の現状を知った上で、学級経営を見せていただいています。実態に合わせた生徒指導や行事を通じて成長した生徒の姿を見ることができるのは、1つのクラスを1年間見ていることのメリットだと思います。

私は、自ら行動し、2年間の研修をフルに活用できたと思っています。教員採用試験対策ではなく、大学生のうちから将来の自分や生徒たちに繋がる体験をできるとういと思います。

(8) 最後に

筆記試験勉強も大切ですが、私は、何よりも「経験」を大切にしてきました。多くの先生方や生徒と関わったりする「経験」を大切にすることで、「将来こんな先生になりたい」「これを生徒に伝えたい」というモチベーションに繋がります。そのため、私は教員採用試験勉強で「辛い…」と感じたことはありませんでした。

経験するために自ら行動することは、時間もかかり、怖いことかもしれませんが、きっと良い学びになって返ってきます。人とのご縁も引き寄せます。夢を応援して下さい

の人への感謝を忘れずに、今後は「夢や希望を与えることができる先生」を目標に頑張っていきます。読んでくださっている皆さんと一緒に、働くことができることを楽しみにしています。

教員採用試験に向けて

A. M. (理工学部機械工学科 4年)

私は、埼玉県の高校数学の教員採用試験に合格することができました。皆さんにお伝えしたいことはここに書き切れなほど沢山あるのですが、今回はその中でも特に3つのことについて書きたいと思います。既に対策を始めている人にも、これから本腰を入れて頑張ろうと思っている人にも、何か一つでも参考になれば幸いです。

1. 自分自身と向き合うこと

「あなたは、なぜ教員になりたいのですか？」

こう聞かれたとき、皆さんはすぐに答えることができますか？すぐに答えることができる人も勿論いると思います。ですが、中には答えに詰まってしまう人もいないでしょうか。実際、私もそうでした。「教員になりたい」という思いは強くもっていましたが、その理由は漠然としていました。そのため、初めて個人面接の練習をした際は、この質問に上手く答えることができませんでした。それからは、なぜ自分は教員になりたいのかを日々考えるようになりました。「なぜ教員になりたいのか？」「なぜ教員以外の仕事ではダメなのか？」「なぜ高校の教員なのか？」「なぜ数学科なのか？」このように、「なぜ？」と自分に問い続けることで、自分の思いや考えの核が見えてきました。自問自答を繰り返すことはとても時間がかかりますし、答えがわからず行き詰ることも多く、とても大変な作業でした。ですが、こうして自分自身と真剣に向き合ったことで、面接では自分の考えを堂々と話すことができるようになりました。したがって、「あなたは、なぜ教員になりたいのですか？」という質問にまだ答えることができない人は是非「なぜ？」と自分に問い続けてみて下さい。答えることができる人も、今一度自分に問いかけることで、思いが確固たるものになると思います。自分自身と真剣に向き合うことでたどり着いたものを大切に、それを忘れないようにして下さい。

2. 学習ボランティアに積極的に参加すること

机上の学習は勿論大切ですが、それだけにとどまらず、是非積極的に学習ボランティアに参加することをお勧めします。私は、東京都の中学校と埼玉県の公立高校で学習ボランティアをしていました。先ほど、自問自答を繰り返す中で答えがわからず行き詰ったという話をしましたが、そんなときに学習ボランティアでの経験が役立つことがありました。実際に生徒たちと接したり先生方のお話を聞いたりすることで考え方の幅が広がり、自分の考えを更に深めることができました。ここで一つ注意しておきたいことは、「ただ学習ボランティ

アに参加しさえすればいいというわけではない」ということです。学習ボランティアだけでなく教育実習もそうですが、「機会を逃さずに沢山のことを学ぼう」という強い気持ちをもって臨むことが大切です。授業の方法や説明の仕方について、なぜそのようにやるのか理由を先生方に聞いてみる、休み時間になるべく多くの生徒に声を掛ける、というように意識して自分から積極的に行動することで、学びの量は大きく違ってきます。そこで学んだことは面接でも話すことができますし、何より自分の力になります。私が本格的に学習ボランティアを始めたのは、周りとは比べると少し遅く4年生になってからでした。ですが、貪欲に学ぶ姿勢で臨んだことで、遅れを取り戻すことができたと思っています。まだこのような経験を一度もしたことがない人は、まずは積極的に募集情報を探してみてください。また、既に行っている人は、自分の取り組む姿勢を今一度振り返り、より一層多くのことを学んで下さい。

3. 試験当日は何があっても焦らず落ち着くこと

やはり、試験当日は何があるかわかりません。私の場合は、1次試験の専門科目(数学)で、これは絶対に解けるだろうと思って解き始めた問題で答えが出せなかったことで焦ってしまい、その後最後まで落ち着きを取り戻すことができませんでした。この反省を生かし、2次試験では想定外のことが起きても落ち着いて対応することができました。例えば、集団面接では「1+1はなぜ2なのかと生徒に聞かれたらどう答えるか？」という質問をされました。他の受験者はすらすらと答えていたのですが、私はまさかこんな質問をされるとは思っていませんでしたし、私自身「たしかになぜ1+1=2なのだろう？」とそのとき初めて疑問に思いました。1次試験時の私であればおそらく焦っていましたが、このときは「どうすれば生徒を思いやった返事になるか」と落ち着いて考え、自分なりに上手く答えることができました。このように想定外のことが起きたときに自分を助けてくれるのは、今までの練習量や自分の考えの核となるものだと思います。今までの面接練習で何か似たようなことを聞かれなかったか、学習ボランティアで学んだことで何か生かせることはないか、自分の核に立ち返ると何ができるか、というように考えれば自然と自分のペースを取り戻すことができると思います。試験当日にどんなことが起きても焦らず落ち着いて対応できるよう、準備は念入りに行ってください。準備しすぎて後悔することは決してありません。

4. 最後に

これから教員採用試験に臨む皆さんには、是非周りの人への感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。私自身は、試験本番が終わるまでは自分のことでいっぱいだったため、周りの人への感謝の気持ちを忘れていました。これは大きな反省点です。皆さんには、先生方や友達、そして両親への感謝の気持ちを常にもって教員採用試験まで頑張してほしいと思います。ここまで読んでいただき、ありがとうございます

た。皆さんのことを心から応援しています。

教員採用試験・大学院試験に向けて

T. N. (応用植物科学科 4 年)

私は、今年度東京都及び茨城県の教員採用試験並びに東京学芸大学教職大学院及び筑波大学大学院に合格をいただくことができた。今回は東京都及び筑波大学大学院の試験に絞り、対策したこと・感想について記述する。

(1) 東京都教員採用試験について

東京都の教員採用試験で最初に対策を行ったのは論文試験である。東京都の論文は 70 分で 1050 字と文字数が多く、テーマも抽象的なものが多いため、教職課程センターの田神先生に 3 年生の 8 月頃から添削を依頼し、最終的には 56 回添削をしていただき、手で自分の論文の型を記憶するようにした。

東京都の論文を多く書いたことで、論文を書く力が付き、他の試験においてもスムーズに対策ができたと考える。

次に対策を行ったのは教職教養である。東京都は他の自治体に比べ、正誤問題の量が圧倒的に多く、穴埋めのような問題がほとんど出ないのが特徴であった。このため、東京都の対策は、上辺だけの暗記だけではなく深く理解をするための勉強が必要となる。私は、そのために学習指導要領を最初の参考書として使用した。学習指導要領に書いてある単語や文言を調べてノートにまとめることで、教職教養に対する理解と全体像を把握できたと考える。その後、一般的な教職教養の参考書を読み、「教員養成セミナー」の付録で復習をすることにより、知識を身に付けていった。この結果、東京都の教職教養の試験では 96 点と高得点をとることができた。

1 次試験対策の最後は、専門教養である。東京都含め、教員採用試験の理科は物化生地を網羅しなければならないという大きな関門がある。特に地学は高校で学んでいる人が少ないため、最初から勉強をする必要があり、大変なのは明らかである。私は専門が化学であったため、「重要問題演習」を 5 回繰り返し解きながら、他の科目は基礎を付したものの「リードα」を繰り返し解いていった。その際、各教科書を主教材として用いることにより、単元の配列を知ることができ、面接試験の対策に通じたと考える。

2 次試験の対策を本格的に開始したのは 1 次試験終了後であった。まず東京都には集団討論、個人面接の二つの試験があり、個人面接は、面接票に関する質問・単元指導計画に関する質問・場面指導や教養に関する質問に分類される。集団討論は対策が難しいため、日頃からのグループワークの役割をベースに、東京都から送られてくるテーマについて友人と討論した。個人面接については、かねてから田神先生が開催してくださった面接練習に積極的に参加し、考えられる質問についてはすべて答えられるようにしていった。特に難関だと感じたのは面接票に関する質問である。「東京都出身ではな

い」「高校での部活動経験がない」「取得した資格がない」という穴を埋めるために、大学時代の経験を必ず交えて質問に答えるようにした。

東京都の試験について全体的に感じたことは、受験する人数が多いため、対策法が確立されており、時間と比例して点数が上がりやすいということである。実際、2 次試験では、想定を超える質問が出ることがなかったが、追質問が多く、時間をかけた対策をしていなければ余裕をもった対応ができなかったと感じた。軸となる勉強法を見つけた後は、じっくりと時間をかけて対策をしていくことの必要性を感じた。

(2) 筑波大学大学院試験について

私が受験したのは、人間学群教育学類の次世代学校教育創成サブプログラムである。

受験した理由は 2 つあり、「①アクティブラーニングについての最先端の教養を身に付けたい」と、「②教員になる前の教材作成などの事前準備をしたい」である。筑波大学は教育の総本山であり、最先端の教養を得るためには絶好の場所である。入学のための試験は、教養試験・専門試験・面接の 3 つからなる。

面接試験は多くの対策を必要とする。その中でも研究計画書は自分一人での対策は厳しいと感じた。そのため、理科教育法等の授業でお世話になっている辻本先生に質問と添削をしていただき対策を行った。面接試験では、研究計画書をベースにした深い質問が聞かれるが、特に圧迫面接をする担当の面接官がいたように感じられ、言葉の扱いなどを指摘されることがあった。このようなことから、教育系の大学院の面接試験では、教育専門用語の扱いについて知るために論文などを多く読むことが重要であると考えた。実際、論文を読むだけ個所は自身を持って答えることができたと感じた。

筆記試験のうち、教養試験では、教育学と心理学の用語についての記述問題が多く出題される。そのため、「現代の心理学」をベースに対策を行い、心理学用語の知識を多く身に付け、教育時事については中央教育審議会答申をベースに対策を行った。中央教育審議会答申は、令和日本文学型学校教育を主に読み込みこんだ。

専門教養では、英語で教育に関する論文を読み、記述する問題があり、TOEIC 等で英語に関する対策を行う必要があった。英語は付け焼刃での対応が難しいため、早くから英単語等の読み込みが必要である。

筑波大学大学院試験全体を通して感じたことは、大学院の先輩を見つけることの重要性である。大学受験に比べ、受ける人数が少ないため、勉強法や対策が確立しにくいのが大学院試験の難しさである。そのため、先輩を見つけ、どのような対策をしたか、どのような研究をしているかを聞くことがとても重要であると感じた。

これから教員採用試験や大学院試験をする皆さん、試験勉強頑張ってください、応援しています。

教員採用試験について

S. I. (理工学部創生科学科 4年)

私は川崎市の数学科中学校/高等学校の教員採用試験に合格しました。川崎市立高校は5校しかないため、原則中学校に配属されます。そのため、この合格体験記では中学校教員としての教員採用試験の対策と、経験してよかった事を書かせていただきます。

【教員採用試験対策】

1) 1次試験→大学推薦で免除

私は大学推薦をいただき、1次試験は免除になりました。川崎市の大学推薦は「免除者を選考する」となっているため、免除にならない場合もあります。私は、1次試験の勉強をあまりしていなかったため結果が分かるまで不安な日々を過ごしていました。大学推薦に関して自治体への提出物は小論文、大学の成績、推薦書の3点でした。そのうち自分自身で書くのは小論文のみでした。小論文は大学推薦用のテーマがすでに分かっているため、先生に添削していただいた論文を提出しました。私の大学の成績はGPA2.34と高いとは言えない成績でしたが免除をいただけました。推薦書は辻本先生に面接をしていただき、その内容から書いてくださいました。その際に自分の教職に生かせる体験をすべて話しました。

2) 2次試験

2次試験は①小論文②場面指導③個人面接の3つでした。大学推薦で1次試験免除になったことで他の受験者と対応が変わることはありませんでした。

① 小論文

小論文は田神先生に添削していただき、練習をしました。しかし、私は合計17回しか練習をしていませんでした。10回程書いたところから自分の型は決まってきたのですが、制限時間内に書く練習をしていなかったため、論文ごとに変える箇所(前文の最初や例、策)だけを書く練習を直前に行いました。これまでに自分が書いた論文と、ネットにある川崎市の小論文の過去問(約10回分)で練習したことで、当日始めて見る内容のテーマでも最初の論文の構想作りがスムーズにできたため時間内に書き終わることができました。

② 場面指導

川崎市の場面指導は1次試験の日にテーマがわかるため、試験には対策を行って挑むことができます。場面指導は絶対に複数人で練習をすることをおすすめします。自分一人で練習をするとありきたりな内容になってしまい、他の人と差がつけられません。いろいろな人の意見を聞いて自分にしかできない場面指導をすることを意識してみてください。私は、家族と練習を行いました。ボランティアなどで学校に行っている人は、是非その先生方に練習を見てもらえないか頼んでみるのもいいと思います。

③ 個人面接

面接では表情や雰囲気重要になってくると思います。実

際に私は面接官の方に「笑顔で話していてもとても明るい印象を受けました」と言っていたので、笑顔ではきはき明るく話すことを意識すると思います。

面接練習は、主に2つに分けて対策を行いました。1つ目は大学で先生に面接練習をしていただく実践練習です。実践練習では内容よりも表情や受け答え、粘り強く答える練習だと思って取り組んでいました。私は内容をまとめて話すことが苦手でしたが、回数を重ねるごとに慣れていきました。2つ目は自主勉強です。頭の中で何を話すか事前に考えていても、面接練習のときにはその場の思い付きで話してしまうことがありました。そこで私は、ノートや単語帳アプリを使って質問の一问一答を作り、約70個の質問に対する回答を用意しました。そうすることで試験のときに焦らず答えることができました。

【経験してよかったこと】

試験まではできるだけ中学生と関わる場面を多くつくることで、自分の自信にも繋がっていきました。私が経験してよかったことは以下の4つです。

① かわさき教師塾「輝け☆明日の先生」

川崎市の教員を目指す人の研修。

→市が主催しているので方針などを知ることができるため、面接の参考になりました。

② 学校サポーター (中学校での活動)

- ・特別支援学級の生徒への支援
- ・別室登校の生徒への支援
- ・授業内で勉強が苦手な生徒への支援

→学校の現状を知ることができます。自分から多くの人と関わることが大切です。

③ 学習サポーター (生活困窮者支援)

・「貧困の連鎖の防止」を目的に生活困窮者に学習支援や居場所づくりを行う。

→生徒の中には様々な問題を抱えている人がいることが分かるので、多くの生徒に寄り添うためにはどのような配慮が必要か考えるきっかけになりました。

④ 塾講師

集団の学習塾でのアルバイトをしていました。人前で話すことに慣れるのはもちろん、生徒との関わり方を多く学べます。面接の「工夫した授業」などの質問にも体験として答えることができました。

【最後に】

教員採用試験の勉強は、どれほどやっても不安はなくならないと思います。一人で抱え込まず、友達や家族、学校の先生方などたくさんの人を頼りながら過ごしてください。自分が本当に教員を目指しているなら、絶対に周りの人も協力してくれるはずですよ。

教員を目指す全員が合格することを祈っています。応援しています！

教師になる道のり

K. T. (生命科学部生命機能学科 4年)

私は、東京都の中・高共通理科(生物)の教員採用試験に合格しました。この体験記が東京都の採用試験への対策や勉強方法など少しでも参考になれば幸いです。

(1) 東京都の教員採用試験について

東京都の教員採用試験は、一次試験と二次試験があります。一次試験は、専門教養・教職教養・論文です。専門教科は、私は生物専攻でしたので、生物以外は基礎科目まで、生物は、生物基礎と生物が範囲となります。教職教養は、教育法規、教育心理学、学習指導要領、教育時事を中心に、ほかの県よりも難易度が高い印象です。二次試験は、集団討論と個人面接があります。一次試験は7月11日(日)に行われ、二次試験は8月22日(日)に行われました。最終合格発表は10月22日(金)でした。

(2) 専門教養(一次試験)

私の専門科目は、生物です。東京都の場合、中・高共通の生物であるため、中学校と高校全ての範囲から出題されます。専門科目の勉強法として私が行っていたことは、生物以外の理科科目に関しては、「リードlightノート」を繰り返して行っていました。また、大学入試センター試験の過去問、高校時代の教科書の章末問題を見つけて解いていました。私は、私立大学のみを受験をしたので、生物科目以外には苦手意識がありました。しかし、高校と違い、教えて下さる先生もいないので、大学の友人やインターネットのサイト、youtubeなどが私にとっての先生でした。その結果、理科の一次試験対策だけでなく、これから教員として理科を教える自信も持つことができました。

(3) 教職教養(一次試験)

教職教養は、東京都の過去問と「教職対策ブログ」というサイトで作られた東京都の教職教養分析20年分の資料を基に学習していました。また、東京都だけでは不安であったので、全都道府県の過去問を一通り解き、その中でも教育時事に関しては、同じ内容が出て答えられるようにまとめていました。「教職教養は、とにかく多くの問題に触れることが大切である」と、この勉強を通して皆さんに伝えたいと思いました。

(4) 論文

論文の対策は、教職課程センターの田神先生のご指導の下で対策を行い、添削をして頂きました。私は、合計29回書き、その後、試験一か月前からは、高校の先生や、国語の教員を目指す友人に添削をお願いしていました。また、論文試験対策では、自分の型を作ってから、「論文問題を予測する」ということが、大切でした。教育関係で話題になった内容や、重要用語などはどんどんそれらをテーマに論文を書くことをお勧めしたいです。

(5) 集団討論(二次試験)

東京都は、集団討論のテーマが事前に伝えられます。集団討論で大切なことは、仲間意識(協調性)だと思います。また、テーマの意義をしっかりと捉え、そのテーマの背景や解決策など、事前にしっかりと準備していくことをお勧めします。テーマが出たら、自分で調べるだけでなく教職課程の先生方にも相談したり、また自分たちは同じ東京都を受ける友人同士で夜zoomを繋いで、実際に討論や意見交換を行ったりしていました。

(6) 個人面接(二次試験)

個人面接は、主に面接票と単元指導計画を基に行われます。面接票には、自分が聞かれないことを書いておくとよいと思います。だからこそ、面接票の内容は何を聞かれても大丈夫なように準備しておくことが大切です。また、自分の体験を話すときは、それを自慢するだけでなく、しっかりと教員としてどう生かすのかを考えておくことが重要です。単元指導計画は、その単元について、選んだ理由や具体策など事前に詳しく考えておくとよいと思います。また、その単元の、中学や高校の単元とのつながりは何かなど、やはり中高共通であるからこそ、しっかりと理解しておいてください。面接練習は教職課程の先生方は勿論、実習校の校長や、ともに教育実習を行った友人など、毎日練習を怠らずに行っていました。面接は、慣れというものもあると思いますので、回数を1回でも多くこなすことをお勧めします。

(7) 最後に

教員採用試験は、大学受験と違った試験だと思いました。なぜなら、教員採用試験の勉強は決して一人ではなく、チームプレイが必要だからです。一次試験の対策も、同じ教員を目指す友人と図書館に朝から夜まで籠り、二次試験対策も一次試験が終わってから、毎晩夜zoomを繋いで、練習を行っていました。教員採用試験はあくまで、教員としてのスタート地点に立つための準備段階です。その中でも、誰に言われても曲げることのない自分の目指す理想の教師像を持つことが大切です。なかなか、上手いいかないこともあります。そんな時こそ、自分の母校に顔を出したり、教職課程の先生方に相談したりして、無事合格できることを願っています。

最後まで読んでいただきありがとうございます。少しでも参考になれば幸いです。

教育系大学院進学について

R. K. (理工学部電気電子工学科 4年)

1. 初めに

私は、来年度より筑波大学大学院教育学学位プログラムに進学します。筑波大学大学院は教職大学院ではありませんが、卒業生の多くが教職に就き各地で活躍されています。この合格体験記では、主に私が大学院試験対策で取り組んだことについて記述します。

2. 試験までの流れ

本年度私が受験した筑波大学大学院教育学学位プログラムの試験日程は、10月19日、20日の二日間でした。他の教職大学院の試験も秋ごろの実施が多いため、教員採用試験との併願は可能です。

私は、試験の約半年前から本格的に対策を始めました。その後6月に入試説明会があり、9月上旬に出願書類を提出しました。出願の際に研究計画書の提出が求められますが、後の口述試験に関わる重要な書類なので、大学院進学を考えている人は遅くとも出願の1ヶ月ほど前から作成に取り掛かることをおすすめします。

3. 試験について

試験内容は大学院によって様々ですが、筑波大学大学院は一次試験（筆記試験）と二次試験（口述試験）に分かれており、2日間の日程で行われました。以下それぞれについて私が行った試験対策をお伝えします。

(i) 一次試験について

一次試験では共通科目と専門科目の2科目について筆記試験が行われました。共通科目はいわゆる教職教養で、主に「教育原理」と「教育心理」からの出題でした。私は、東京アカデミーから出版されている教員採用試験対策の参考書と問題集で対策を行いました。また教育心理については少しマニアックな出題もあるため、過去問で出てきた知識に加えてその周辺知識をカバーする形で勉強を進めました。

専門科目は主に「数学教育」、「英語」、「微分積分学」及び「線形代数学」からの出題でした。数学教育については学習指導要領や受験する専攻の教授が執筆されている書籍を読み込むことで対策を行いました。英語は著作権の都合上過去問を閲覧することができませんが、試験を終えてみて、数学教育にまつわる英単語を一通り覚えることが一番の対策になると実感しました。参考までに私は東京図書から出版されている『大学院への英語』という書籍で英語の対策を行いました。それよりも数学教育に関する英文の論文に出てくる単語の対策をすることの方が効果的であると感じました。最後に微分積分学と線形代数学ですが、こちらはマセマ出版社から出版されている「キャンパス・ゼミ」シリーズで対策を行いました。

(ii) 二次試験について

二次試験では個人面接の形式で口述試験が行われました。面接の時間は15分から20分程度でした。特に変わった内容のことは聞かれませんが、印象に残っているものとしては、進学後に受講したい講義についての質問がありました。こちらはシラバス等で確認していないと答えられない内容だと思いますので、大学院試験の受験を考えている人は必ず対策しておくことをおすすめします。

私は口述試験対策として、予想される質問をリストアップしてひたすら自問自答をくり返すというを行いました。試験本番では緊張でうまく話せなくなってしまうこともあるかもしれませんが、これだけは伝えたいという話の「核」を

決めておくことで対応できるようになるかと思います。

4. おわりに

教育系の大学院は合否の結果が秋以降に出るため、進路の面で精神的に不安な部分もあるかと思います。しかし2年間教育について研究し、学びを深めることのできる非常に魅力的な選択肢だと思います。この合格体験記が皆さんの進路選択の一助となれば幸いです。最後までお読みいただきありがとうございました。

合格までの道程

T. K. (理工学部応用情報工学科卒業生)

私が合格に至ったまでの過程と、同時にどのような雇用形態で働いていたかなどを述べていきます。

まず、私が東京都の公立学校教員だけを目指していたことを前提として以下の文をお読みください。

1回目の東京都の採用試験に臨んだのは大学4年生の頃でした。その頃の私は、試験や将来の自分にしっかりとしたビジョンを見出しておらず、たいした対策もしないまま試験本番を迎えてしまいました。専門科目の数学が難しく、教職教養はほとんどわかりませんでした。結果は不合格で、自分でも納得してしまいました。このまま、就職先が決まらない状態で卒業を迎えそうでしたが、卒業ギリギリのところまで私立の高校に非常勤講師として採用されました。これは、同じ年に私学適性検査を受け、オファーを頂いたためでした。

2回目の東京都教員採用試験は、非常勤講師として働きながら受けることになりました。なんとか1次試験は合格しましたが、2次試験で不合格となりました。ここで転職が訪れました。1次試験と2次試験の間に、産休代替教員のお声がかかり、9月初旬から公立中学校の教員として働くことになりました。正規の教員と同じ仕事をし、良い環境の中で良い上司や同僚に囲まれ、多くのことを学ばせていただきました。

3回目の採用試験は、産休代替教員として働きながら受けました。1次試験は合格、2次試験は産休代替教員の経験もあり、正規合格ではないですが、期限付合格をいただきました。期限付合格になり、別の地区の中学校に移ることになりました。約1年半在籍した学校を離れるのは悲しかったです。

4回目の採用試験は、期限付任用教員として働きながら受けました。1次試験は免除となり、2次試験のみの受験で、やっと正規合格をいただきました。

以上のとおり、着実に、というか牛歩の進みですが、一步步段階的に合格に近づいていきました。もちろん一発で合格する人もたくさんいますが、私のように数年かかる人がいるのも事実です。学校で働くとして1発合格ではない先生もたくさんいるとわかります。私から言えることは、試験を舐めず、真摯に取り組み、めげずに受け続けることです。

私は、田神先生をはじめ、臨時的任用教員として働く中で

たくさんの先生方のお世話になりました。周囲の方を大切に、何事にもめげずに取り組んでください。この体験記が採用試験を受ける方のお役に立てれば光栄です。

教員採用試験を通じて

T. O. (理工学部創生科学科 4年)

1 はじめに

今年度、東京都と茨城県の二自治体の教員採用試験を受験しました。東京都では中高共通理科(物理)、茨城県では中学校理科において、両方共に合格することが出来ました。この合格体験記では、私が教員採用試験に合格するために、一次試験、二次試験に向けて取り組んできたことなどについてお伝えできればと思います。これから教員採用試験を受験される方々の参考になれば幸いです。

2 教員採用試験に臨むにあたって

教員採用試験に臨むにあたってはまず、自分がどれだけ本気で教員になりたいか確認することが重要だと思います。はじめにその気持ちを確認することで、教員採用試験の対策に向けて気持ちの整理ができるほか、対策の中でくじけそうになった時も、自分が教員になりたいという気持ちがモチベーションとなり、乗り越えることができます。また教育実習は、人生で初めて教員として授業を行い、生徒とも接する体験ができ、より一層教員として働く気持ちを強めました。中途半端に教員採用試験を受けようと思っていると、対策も中途半端になってしまうので気をつけてください。

3 一次試験

東京都の一次試験は教職教養、専門教養、小論文の3つ、茨城県は教職教養と専門教養の2つでした。茨城県を受けようと思ったのは、今年度から茨城県の一次試験の日程がずれるとの情報を小金井キャンパス教職課程センターの田神先生から頂いたのがきっかけです。一次試験の対策を本格的に始めたのは4月頃からでした。その時点で私の他に教員採用試験を受ける仲間は既に勉強を始めていて、私が知らない知識を多く知っていたので、とても焦りました。小論文の対策は、教職課程センターでは3年の秋ごろから始めた方がよいと言われていたのですが、私が対策を始めたのは4月頃からだったので、これから教員採用試験の対策をされる方々は、私のように慌てることなく計画的に勉強をしてほしいと思います。対策の中身ですが、教職教養は市販の参考書を使ったり、月に一回発売される「教員養成セミナー」を読んだりして知識をインプットした後に、一緒に採用試験を受ける友達と問題を出し合ったり、スマホのアプリで問題を解いたり、ある程度知識が入った段階で過去問を解いたりアウトプットをして対策しました。教職教養の内容は、二次試験の集団討論や個人面接でも重要となる知識なので、二次試験のことも意識しながら勉強することが大切です。東京都の専門教養は、共通問題(基礎を付した理科全科目)+選択問題(発展科目)がそ

れぞれ50点ずつ(合計100点)でした。選択問題に関しては、自分の得意な科目を勉強すればよいので自信がりましたが、共通問題は自分が苦手な科目があり、大変苦労しました。私は教科書や参考書を読んで問題を解くといった一般的な勉強方法が苦手だったので、大学受験対策の授業動画を、スマートフォンやパソコンで受講することができる講座に登録して勉強し、対応しました。本番の自己採点では、選択問題ではミスが少なかったのですが、共通問題がギリギリ合格ラインという感じだったので、皆さんはどちらもまんべんなく勉強してほしいです。小論文に関しては小金井キャンパスの教職課程センターの先生が面倒を見てくださり、何度も練習を繰り返すことで、文章を書くことが苦手な私でも、本番焦らず、字数を不足することなく書き終えることができました。教職教養、専門教養、小論文の3つを合わせて、本番で8割ほど取る意識で勉強すれば、一次試験は突破できると思います。また第一志望の東京都を受ける前に茨城県の試験を受けることで、大学受験でいう「試験慣れ」ができ、少し心に余裕を持って東京都の一次試験に臨めました。もし併願できそうな自治体があれば、受験してみてください。

4 二次試験

東京都の二次試験は、集団討論と個人面接の2つ、茨城県は小論文、集団討論、個人面接の3つでした。茨城県に関しては、内容が特に東京都と変わらなかったため、東京都の対策のみを行いました。集団討論では「周りの意見を聞きつつ、テーマを理解し、自分の意見を主張する」、個人面接では「面接官とのラリーを意識する」など、それぞれ異なる特色があります。しかし、集団討論と個人面接のどちらにも共通する重要なことは、「自分の経験に基づいて話すこと」です。自分のボランティア先の学校で見た生徒の様子や先生の指導方法、教育実習で自分が実践したことなど、自分の経験に基づいて考えを伝えることが、この二次試験では特に重要だと思います。経験だけでなく、教員として必要不可欠な教職教養の内容や専門科目の知識も加え、練習を繰り返すことで、自信を持ちながら、うろたえずに内容のある自分の考えを伝えることができると思います。

5 最後に

教員採用試験の対策は、周りの4年生が就職活動をする中で行わなければならないだけでなく、途中では教育実習があり、試験の結果は10月頃と遅く発表されるなど、精神的に不安になる要素が多いと思います。このような不安要素がある中でのアドバイスとして、「一人で対策しない」ということを伝えたいです。もし私が一人で教員採用試験に臨んでいたら合格できていなかったと思います。一緒に教員採用試験を受ける仲間、教職課程センターの先生方、友達や家族など多くの方々に支えられて、私はこの教員採用試験を乗り越えることができました。特に、ともに教員採用試験を受ける仲間は、対策をする中で情報交換をしたり、一緒に勉強したり、同じ気持ちを共有し励ましあったりと勉強面でも精神面でも

かなり助けられました。これから採用試験を受ける方々も、ともに採用試験を受ける仲間と支え合いながら、頑張っしてほしいと思います。また、この度教員採用試験に合格することができましたが、まだスタート地点に立てたに過ぎません。これから教員として一生懸命頑張り、支えてくれた方々にその姿を見せたいと思います。最後まで読んでいただきありがとうございました。少しでも参考になれば嬉しいです。

神奈川県教員採用試験について

S. S. (理工学部創生科学科 2018年卒業)

法政大学生の皆さん、こんにちは。少し私のことを述べます。私は神奈川県教員採用試験(高校数学)に2回落ちています。なぜこのようになったかという、数学力のなさ、そして自分に甘かったからです。例えば、勉強しなければいけないのにアルバイトを理由にして勉強しなかったり、「今日の授業5限まであって大変だったから」という理由でお酒を飲みにいったりした日も多々ありました。皆さんの中には教員になるためしっかり勉強している方もいれば、そうでない方もいるかと思いますが。私の原稿がどちらにも参考になればと思います。

(1) 1次試験について

(a) 一般教養試験

神奈川県では国数理社英音美から出ます。おそらく数学、英語、理科(私は理科苦手なのでダメでしたが)は大学受験でしっかり勉強した方なら大丈夫かと思います。国語は過去問をしっかりと解いて自分が解けそうな問題、解けなさそうな問題をはっきりさせました。例えば、私は現代文で作者の考えを選ぶ問題は得意でしたが、古典の単語力を問われる問題は苦手でした。ですので、古典の勉強はせず、他に力を注ぎました。社会は一番問題数が多いので、広く浅くのスタンスで知識を身に付けました。音楽は楽譜が読めなければ捨てましょう。美術は意外と対応できるので、余裕あれば作品と作者を覚えましょう。

(b) 教職教養試験

教職教養はかなり勉強しました。まず、過去問を何回も解くことが大事だと思います。また、YouTubeの「きょうセミちゃんねる」とか「教授対策ブログ」とかを何回も視聴していました。これだけでだいぶ点が取れると思います。神奈川県の教職教養は、かなり簡単です。明らかにおかしい選択肢も混ざっていますので、覚えたことだけで闘うのではなく、時には常識的に考えて、消去法で闘っていくのがよいかと思います。地方公務員は公の立場ですので、「もし、この選択肢が正しいとすると…?」という視点が大事かと思います。

(c) 専門教科試験

冒頭にも述べた通り、私はここでかなり苦戦しました。現勤務校でフォーカスゴールド(FG)という参考書に出会ったのですが、これの星2.3の問題を徹底的に解くことによって

数学力が向上しました。青チャートなどは分厚くてやる気が起きにくいかもしれませんが、進学校に配属されたら当たり前の日々になりますので、今から心を鍛えておくといいと思います。

「FGや青チャートと全く同じ問題!？」と思ったことも結構あるのでお勧めです。

(d) 論文試験

これは田神先生についていけば間違いありません。必ずヒットしますので、心配する必要はありません。文章力のない私ですが、合格圏に十分入ります。神奈川県はICT教育やインクルーシブ教育を推進していますので、その辺の知識を少し勉強しておく書きやすくなると思います。

(2) 2次試験について

私は、臨時的任用教員として2年目のときに受かりました。試験官もその視点で評価しているかだと思います。また、模擬授業後の協議がないなど、試験内容にコロナ禍の影響もあります。その辺はご理解ください。

(a) 模擬授業

2つ大事なことを伝えたいと思います。1つ目は、「自信をもって明るくはっきりとしゃべること」です。私は現在教壇に立っていますが、授業準備が不十分だと伝えることを意識しすぎて、生徒の目を見ることができないときがあります。つまり、自分に自信がないからです。こうなると多分落ちます。授業はとて難しいです。「話す」、「書く」、「聞く」、「見る」これを常に意識しながら、スムーズにやらなければいけないからです。自分がこれまでに受けた一番好きな授業を思い出してもらって、どうやったらスムーズになるかなと思いつながりながら授業を組み立ててみてください。完璧ではなく、自信をもつことができれば大丈夫です。

2つ目は、自信をもつためにできる限り大勢の人の前で模擬授業や発表の経験をするということです。これは中々できないですよ。ですが、受かるためにはかなり重要です。2次試験の模擬授業の緊張感は想像以上です。かなり緊張します。私ももちろん緊張しましたが、ある程度平常心を保てました。なぜなら、進学校に勤めている教員15人くらいの前で模擬授業を行ったからです。これに勝る緊張はないです。つまり、2次試験の大きな緊張感と同等の緊張感を経験していることが大事です。そうすると「あの時経験した緊張に勝るものはない。自分はいい授業ができる!」と自分を鼓舞することができます。せっかく準備してきた授業のパフォーマンスを出すためにも、恥ずかしい等あるかと思いますが、役者だと思って自分の思う理想の教師の授業をしてみてください。

(b) 個人面接

今回の面接試験は例年に比べ内容は大きく変わったと思います。まず、初めに志望理由聞かれると思って、入念に準備しましたが、まったく聞かれませんでした。準備したもののうち3割使ったかな?といった印象です。今回の面接試験で重要だと思ったことは、「自分が意志をもって行動しているか」

です。例えば、典型的な例として「生徒が相談したいから連絡先教えてほしいと言ってきた、あなたはどうしますか？」という質問があります。返答の一例としては「断った後、この生徒が悩みを抱えていることを保健室の教員や、学年の教員に共有する。」だと思います。この返答に対して「あなたはなぜそのような行動をとるのですか？」と聞いてきます。つまり、質問に対して1問1答で覚えてきている人が受かるのではなく、ちゃんと行動する意味、意義を捉えている人が合格を手にするかと思います。

あとは見栄を張らず等身大で回答することが大事です。こう答えた方がポイント高いだろうと考えると落ちます。相手は何千人と人を見てきている面接のプロですので、できないことはできないとはっきり言うことが大事です。

(3) 最後に

私の職場の先輩には8回目でやっとなにか受かったという人がいます。諦めなければ必ず受かります。大事なものは自信、そして教員になりたいという強い意志だと思います。私の原稿が少しでも皆さんの合格の助けになればと思います。そして、本当に教員の仕事は疲れますが、楽しいです。同じ職場で働ける日を楽しみにしています。

自分がやりたいことを仕事に

T. Y. (経済学部国際経済学科 科目等履修生)

はじめに

私は今年度、東京都の中高共通社会・公民科に合格しました。多くの方が民間企業に就職する中で、教員を目指した理由と卒業後1年の生活、実際に行った勉強方法や学んだことなどを話したいと思うので、参考にして頂けたら幸いです。

教員を目指した理由

私が教員を目指した理由は主に二つあります。一つは、高校時代の恩師の影響があります。非常にフレンドリーな人で一人一人の性格や能力を良く理解し、生徒が感じている疑問や不安を的確に示し、常に生徒の立場に立ってくれました。また、生徒のために周りの先生方や学校という組織の中で、1人で意見する様子も何度も見てきて、私は将来この人のように、自分自身を強く持って、ブレない大人になりたいと強く思っていました。

もう一つは、世の中には多くの理不尽なことが多くあること、思いやりや想像力の欠如など、自分自身が疑問や不満に思っていることが多くあり、これらを解決するには民間企業よりも教師であると考えたからです。在学中3年次の夏から様々な企業のインターンに参加して、就活もそれなりにしていましたがどれも自分がやりたいことでは無かったので本腰が入りませんでした。しかし、就活を通して、集団の中で意見をまとめる方法や、教師になりたいという想いがより強まったため、就活に時間を割いたことはプラスなことが多かったと考えています。そのため、挑戦できるチャンスがあるな

ら教師志望の方も積極的に色々なことを経験してみたいです。また、経済学部の学生は、教員を目指す人は少ないため、周りに流されて自分を見失うことも多くあると思いますが、私はこれからの人生の時間の大半を割く仕事に関して、やりたいことを仕事に出来るならばこれ以上幸せなことではないと考えています。自分の人生は、自分で決めるんだという気持ちを持ち、焦らず悩み、葛藤して納得いく進路に向けて努力して欲しいです。

教員採用試験へ合格まで

まず一次試験まで、私が本格的に勉強した期間は、4月から7月までの約3ヶ月です。大学を卒業し、科目等履修生として東京都の試験に必要な免許を取得しながら、アルバイト、勉強という生活を送っていました。この3ヶ月は金銭的、精神的に非常に辛かったのですがなんとかこなしていました。主に行った勉強方法を話したいと思います。

まず、一次試験の専門教養に関してです。高校の政治経済、倫理の参考書を読み込むことと、教材で紹介されている人物の代表作、大学の授業で使用していた専門書、インターネットなどを使い、自分が授業するならどのように教えるか考えながら勉強していました。また、アウトプットのために、教授の過去問、センター試験過去10年分、共通テストと様々な大学の赤本を多く解きました。また、法律などは、六法全書など専門書を使い詳しく学びました。教職教養に関しては、テキストを流し読みした程度であったため、ほとんど点数が取れませんでした。論文に関してもほとんど勉強する時間を割く時間がなく対策講座に参加した経験を元に、書きました。論文に関しては、日頃の教職の授業にしっかり参加して、先生方が行う問題提起に関して、自分の考えを文章化してきたため、その成果が出たのだと思います。

次に2次試験です。指導案に関しては、自分自身の問題意識が高いもので、初学者に教えるということと生徒の関わりがある身近なことから授業を発展させることを意識しました。個人面接は、教授に面接対策をして頂いたおかげで、自信を持って面接に臨めたので、短期間でも受け答えの練習をした方が良いと思います。最後に集団討論では、テーマに対して、的確に自分の考えを述べつつ、問題の論点から外させないように注意していました。

実際に試験を終えて、日頃の教職の授業での先生方がもつ問題意識や課題に対して、自分自身も真剣に考えていくことが最も効率的で有意義な勉強方法であると強く実感しました。

終わりに

民間企業か教師を目指すか悩んでいる方は、多くいると思います。また、実習時期と就活が被るため、教職の履修自体を断念する方もいると思います。この1年間で学んだことは、少しでも可能性があるのなら最初から諦めないで思い切って挑戦することの大切さです。誰かが無理だと決めつけていても、自分にとっては例外であることだってたくさんあります。無責任な他人の考えに左右されてしまい、悩み、葛藤するこ

とは当然あると思います。しかし、そこで妥協せず、自分自身が責任を持てるような決断をすることが大切だと実感しています。日頃から支えてくれている人に感謝しながら頑張ってください。

教員採用試験 私の勉強法

K. T. (社会学部社会政策科学科 4年)

1. はじめに

私は令和4年度採用、東京都の中・高共通社会公民の教員採用試験に合格しました。ここでは、試験に向けて私が行った勉強方法ややっておいてよかったことなどをお話したいと思います。少しでも参考になれば幸いです。

2. 東京都・茨城県の教員採用試験

私は今回、茨城県と東京都の教員採用試験を受験しました。1次試験をどちらも合格することができ、2次試験は試験日が同日であったため東京都を受験しました。

聞いたことがある方もいらっしゃると思いますが、受験自治体によって問題の傾向が異なります。実際、私が受験した茨城県と東京都でもかなり異なっていました。なので、受験の際には、まずは自分の受験自治体を決めることをお勧めします。

また、受験自治体によって日にちが異なり、場合によっては併願が可能です。地元が地方の方は、地元の自治体と関東圏の自治体との併願も良いと思います。

今年は茨城県の1次試験日が6月27日、東京都の1次試験は7月11日でした。受験日や申し込み方法に関しては、3月から4月にかけて各自治体の教育委員会のホームページに掲載されるのでチェックしておきましょう。

3. 試験に向けて

自治体・受験科目によって試験内容は異なります。ここでは、私の受験した自治体の試験科目に分けて、試験対策とポイントを紹介したいと思います。

(1) 教職教養

教職教養は今まで触れたことがなく、初めて学ぶ知識が多かったため、かなり多くの時間を割きました。時期としては11月ごろから、少しずつ始めたという感じです。過去問からあたるという方法もありますが、私の場合一通り知識を頭に入れる必要があると感じたので、「教職教養らくらくマスター」という参考書と「教職教養よく出る過去問224」という問題集を使って基礎を固めました。

この参考書と問題集の内容はリンクしていて、テーマごとに分かれているので1日1テーマをノルマにして行っていました。基礎を固めておくことで、過去問を解く際にも簡単に解くことができ、試験当日過去に出なかった新しい傾向の問題に対応することができます。

(2) 専門科目

東京都の教員採用試験は公民科も地歴科も共通の問題があ

るのが特徴です。私は社会公民科の受験であったため、公民科の勉強に力を入れました。共通の問題は過去問を解く程度でした。公民科の勉強方法は、高校時代使っていた教科書と資料集を使い、①読み込む②重要な所をノートにまとめる③頭の中で何度も復唱するという形で行なっていました。資料集は大まかな重要な所だけをつかむのではなく、枠の細文字など、補足情報までおさえることを意識しました。また、分からないところはインターネットで検索したり You Tube の解説を見たりしていました。

(3) 小論文

小論文は各自治体・校種で形式や文字数が決まっています。書き始める前に、受験自治体の過去問を確認してみましょう。私の場合、小論文は学校の教職課程センターで行われている対策講座に参加し、添削をしていただきました。小論文は、「1週間に1テーマ」と決めて書く⇒添削してもらう⇒もう一度書き直す という形です。書く際には、いきなり時間を測って書き始めるのではなく、まずテーマについてよく調べてから(私は2時間くらいかかっていました)、形式に沿って書いていました。そうすることで、次似たお題が出たときに対応できます。

また、友達と小論文を読みあい、添削しあうという方法も行っていました。他の意見に触れることが出来るとともに、書き方など参考にすることができます。

(4) 集団討論・面接

面接・集団討論は2次試験で行われました。そのため、対策を本格的にとり始めたのは、1次試験が終わってからです。

面接対策として、私が行ったことは「自己分析」です。書店で売っている就活用の自己分析の本を使って、好きなものは何か、今までで一番つらかったことは何か・楽しかったことは何かなど、幅広く深掘りします。一見、関係なさそうに見えますが、深掘りしていくことで自分が教師を目指した理由や何で教師になりたいのか、など自分の「核」を見つけることが出来ると思います。志望動機がうまく書けない、何をしてもよいかわからない人にはお勧めです。

(5) おわりに

最後に、教員採用試験を通して、やっておいてよかったなと思ったことをお話しします。それは「こどもと関わる」という経験です。私は、学習支援のボランティア、居場所支援のボランティア、学童でアルバイトをしていました。そうした経験が、教職教養を学ぶ上でも面接の上でも役に立ったと思います。また、教員採用試験のためだけではなく、社会経験としてマナーや人とのつながりなど多くのことを学ぶことができます。ぜひ、座学の勉強に加えて、そうした経験をしてみて下さい！

岐阜県教員採用試験について

R. S. (スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年)

初めに

私は岐阜県の高등학교保健体育の教員採用試験に合格することができました。第二希望として受験したため、十分な準備をしていませんでしたが、受験した感触等が参考になればと思います。

一次試験について

①筆記試験

マークシート形式 → 教職教養 (10問)

+ 専門教養 (30問)

合計90分で同時配布され、一度に行う

教職教養について

・6問は教育法規からの出題 残りが様々な分野からの出題

☆とにかく教育法規を勉強!!

専門教養について

・15問は学習指導要領からの出題

15問は保健体育の内容や資料に関する出題

・学習指導要領からの問題は「保健体育科改訂の趣旨及び要点」「目標」「領域ごとの目標」など

・保健体育の内容や資料に関する問題は「競技や保健に関する知識問題」「連盟や省庁の資料」

☆学習指導要領を中心に基本的な知識を勉強!!

②集団面接

面接官3人 受験者6人 トータル25分

質問内容

- 1:あなたの理想の教師像は何ですか
- 2:そのために日々取り組んでいることは何かありますか
- 3:教師に最も必要なものは何だと思いますか
- 4:生徒指導を行う際に気を付けることは何ですか
- 5:保護者から相談を受けた際に気を付けることは何ですか
- 6:あなたの売りは何ですか

質問方法

- ・同じ面接官が質問を行う
- ・Aさん→Bさん→Cさん……の順で質問aを答え、次に2→3→4……で質問bを答えるという要領

その他

- ・廊下で待っているときの緊張感はすごい。1の人の緊張している様子が皆に移っていく感じがした。
- ・面接が進むにつれて、まわりの受験者が教職経験者ばかりだと分かっていくのは怖かった。
- ・他の人が答えている間はそっちを向きうなずきつつ、自分の回答のことを考えていた。

☆自分の経験から話すことを大切に!!

二次試験について

- ・一日目

①論作文

急激に変化する時代の中で高校生にどのような資質・能力を身に付けさせるべきであるか。また、日々の教育活動であなたはどのようなことに意識的に取り組もうと考えるか。(720~800字)

☆論作文はどんどん書いて、添削をしてもらうことを繰り返す!!

②実技試験

ハードル走(24名を半分に分け、ハードルとダンスを12名で行った)

雨だったため、室内で行った。フレキシブルハードル3台を跳ぶ。

受験番号順に2回練習を行い、その後本番一度のみ。

「練習は特に見てないので自由に行ってください」と言われたがしっかりメモ取る。

ダンス

2分間音楽を聴きながらダンスをつくる時間を与えられた。

その後、2人だけを部屋に残し1分間踊る。試験官と1対1。

以上の流れを現代的なリズムのダンスと創作ダンスとそれぞれ行う。創作ダンスは無音。

創作ダンスのテーマは「喜び」でした。

バスケット(バスケット、バレー、サッカーから選択)

・45度からトップにパスを出し、ハイポストで再びパスを受ける。

フロントターン→フェイク→ドライブ→レイアップ×2本

・45度からトップにパスを出し、0度に落ちパスを受けジャンプシュート×2本

※試験官は素人でした。細かいミスはバレないと思い、経験者らしさを前面に出してやりました。

☆実技試験は内容が分かっているものは早めに練習を始める!!

・二日目

①個人面接

試験官2人。20分間。感じの良いおじいちゃんという感じでとても話しやすく落ち着いた。

以下質問内容(すべては覚えていないかもしれませんが)

岐阜県の教育で何か知っていることを教えてください。

教育実習では何を学びましたか?

大学では何を学びましたか?

体育の授業で大切なことは何だと考えていますか?

学級経営で気を付けることはなんですか?

保護者の方から相談を受けた際にはどのように対応しますか?

部活動についてはどう考えていますか?

「ここからはもう余談になってしまうのですが、」と言わ

れました

あまり聞かれたくないところだとは思いますが、岐阜に骨をうずめる覚悟はありますか？

岐阜県の良いところはどこですか？

東京ではダメなのでしょうか？

②プレゼンテーション面接

面接官2人。20分間。部屋に入ると机に紙が置いてあり、その紙を読んでから実際に生徒に話すように話す。説明の後、紙を読み考える時間5分、子供たちに話す演技3分、その内容に対する質疑という流れ。

お題

あなたは高校3年の学級担任です。「文化祭の準備をしているときにふざけている生徒がいる。またその生徒に対して悪口を言うなどの行為も起こっている。」と学級委員から報告を受けた。ホームルームの中で生徒に対して話す内容を具体的に考えてください。

質疑

今のプレゼンテーションの中で気を付けたことは何ですか？

クラスで話す前に準備しておくことはありますか？

☆面接系は教職に関する知識とその自治体のことを勉強しておく！！準備が大切！！

最後に

あくまで私が感じたことについて書きました。一人一人得意なもの苦手なものは違うと思うので、自分に合った勉強、対策の仕方を探してみてください。